

タイトル：『汐製菓会社の新作の
キャラクター』

【登場人物】

- ・ 汐（30代・男性）…汐製菓会社社長。
革新的なお菓子を生み出すことに情熱を注ぐ。「面白きことも無き世を面白く」が口癖。常識を超えた発想で突き進む。
- ・ 塩田（30代・女性）…汐の秘書。真面目で慎重だが、汐の無謀なアイデアに振り回される。実は大のスイーツ好きで、汐製菓に就職したが、社長の奇抜さに毎回苦労している。
- ・ 小川（20代・男性）…汐製菓の若手社員。汐の発想に驚愕しつつ、意外と乗り気。塩田に比べて、社長の発想に対する拒否反応が少ない。

- ・ 李（40代・男性）…中国から来たバイヤ
ー。甘辛の味が大好きで、北京ダック
味キャラメルに大興奮。

- ・ マリア（30代・女性）…スペインのバイヤ
ー。ユニークな味に興味津々で、特にス
ライスと甘さの融合に期待している。

- ・ 佐藤（50代・男性）…日本の小売店オ
ーナー。伝統を重んじ、奇抜な商品に
対して慎重な態度をとる。

- ・ エリック（30代・男性）…アメリカのバイ
ヤー。珍しい味には興味があるが、キャ
ラメルは甘いものだという固定観念が
強い。

- ・ 試食会の観客たち…日本の一般客や外
国からの観光客が多数登場し、様々な
反応を見せる。

- ・ 第一幕…社長の奇抜な発想（15分）

- ・ 場面…汐製菓の社長室。

汐は机の前でキャラメルの試作品を手

に取り、悩んでいる。塩田が心配そうに入室。

- 汐：「うーん…キャラメルって、もう普通の味じゃつまらないよな。次は何かもつと驚くようなものを作らないと！」

（歩き回りながら考え込む）

- 塩田：「社長、次もまた突飛なアイデアを考えてるんじゃない？？」

（心配そうに質問）

- 汐：「その通りだ！塩田、次の新作はこれだ！『キャラメル北京ダック味』！どうだ？」

（得意げに発表）

- 塩田：「…『北京ダック味』ですか？お菓子で、ですか？」

（困惑）

- 汐：「そうさ！人々はもはや普通のキャラメルには飽きている。新しい体験を求めてるんだ。『北京ダック味』なんて誰

も予想しないだろう？まさに驚きの一品だ！」

- 塩田：「驚きすぎて、食べる気が失せるかも……」

（少し皮肉を込めて）

- 汐：「そんなことないさ！世の中を面白くするためには、もっと大胆な挑戦が必要だ！」

- そこで、小川が元気に入室。

- 小川：「お疲れ様です！次の新作、社長がまた何か面白いことを思いついたって聞きましたけど……『北京ダック味キャラメル』ですか！？すごいこと考えましたね！」

（目を輝かせて）

- 汐：「そうだろう！この一風変わったキャラメルが、新しい時代を切り開くんだ！」

• 塩田：「でも、それって本当に売れるんでしょうか？甘さとしょっぱさ、うまいくきますかね？」

• 小川：「僕は楽しみですよ！新しい味の冒険って感じで！でも、どうやって北京ダックの風味をキャラメルに閉じ込めるんですかね？」

• 汐：「それがこれからの試作の楽しみどころだよ！早速研究部門に指示を出そう！」

• 第二幕：試作の試行錯誤（20分）

• 場面：汐製菓の研究室。

研究員たちが苦勞しながら、試作品を次々と作っている。汐、塩田、小川が見守る。

• 研究員A：「こちらが最初の試作品です。ですが、甘さと肉の味のバランスが非常に難しくって…」

- 汐：「その難しさが革新の鍵だ！食べてみようじゃないか！」
(キャラメルを一口)
- 塩田：「社長、本当に大丈夫なんですか…？」
- 汐：(一瞬黙る)「…うん！うまい！これだ！まさに北京ダックの香ばしさとキャラメルの甘さが絶妙にマッチしてる！」
- 小川：(恐る恐る一口食べる)「…これは…すごいです！甘いのに、しょっぱい！でも、なんかもう一口食べたくなる感じが…」
- 塩田：「…確かに、一口目は驚きましたが、二口目も行けるかも…。でも、これはどうやって広めたらいいんでしょう？」
- 汐：「まずは試食会だ！世界中のバイヤーを呼んで、みんなにこの新しい味を体験してもらおう！」

- 第三幕：試食会の波乱（30分）
- 場面：汐製菓の試食会場。テーブルには試作された『北京ダック味キャラメル』が並べられている。
- 会場には国内外のバイヤーや一般客が詰めかけ、メディアも取材に訪れている。
- 汐：（マイクを手にして）「皆さん、ようこそ！今日は特別に新作の『北京ダック味キャラメル』をお披露目します！新しい味覚の冒険、ぜひお楽しみくださいー！」
- 佐藤（日本のバイヤー）：「キャラメルって普通、甘いだけじゃないの？こんなの売れるわけないだろう。」
- エリック（アメリカのバイヤー）：「キャラメルはスイーツだろ？肉の味なんて…ちよつと理解できないな。」
- 汐：「だからこそ新しいんです！皆さん、まずは一口食べてみてくださいー！」

• バイヤーたちは恐る恐るキャラメルを手に取り、口に運ぶ。

• 李（中国のバイヤー）：「これは…すごい！甘辛さのバランスが絶妙だ！北京ダックの味がちゃんとするのに、キャラメルの甘さが追いかけてくる！」

• マリア（スペインのバイヤー）：「おいしい！このスパイスと甘さの組み合わせ、スペインでもきつと受けると思うわ！」

• 佐藤：「いや、これは日本では難しいな…伝統的なキャラメルファンはこんな奇抜な味には手を出さないだろう。」

• エリック：「うーん…これは賛否が分かれる味だな。僕はちょっと…微妙だな。でも、この独特さが話題になるかもしれない。」

• 会場ではさまざまな意見が飛び交い、試食の様子がSNSに広がり始める。

「#衝撃の味」「#面白いけどよくわから

ない」「#食べたことない味」といった反応が一斉に投稿される。

• 第四幕：成功への一歩と次なる挑戦

(15分)

• 場面：試食会が終わった後の汐製菓のオフィス。

• 汐：「やったな、塩田！反応はどうだ？」

• 塩田：「SNSではかなり話題になってます。『癖になる味』っていう意見もあれば、『二度と食べたくない』っていう反応もありましたけど…少なくとも注目は集めましたね。」

• 小川：「でも、結構ポジティブな反応も多いですよ！特に海外のバイヤーたちからは、興味を持たれています。」

• 汐：「そうだ！この波に乗って、次は『ピザ味キャラメル』だ！」

• 塩田：「またそんな奇抜なことを…でも、ここまで来たら何でもありですね」

• 小川：「僕、ピザ味も楽しみです！絶対面白いですよ！」

• 汐は満足げな笑みを浮かべ、次なる挑戦に胸を躍らせている。

• 終